



TITLE:

静脩 Vol. 53 No. 1(2016.4)[全文]

AUTHOR(S):

---

CITATION:

静脩 Vol. 53 No. 1(2016.4)[全文]. 静脩 2016, 53(1)

ISSUE DATE:

2016-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209131>

RIGHT:



# 静脩

SEI-SHU

2016

04

Vol.53 No.1

特集

## 新入生のための、情報探索。

～授業、講習会、イベントを紹介します～

### CONTENTS

- 02 新入生のための、情報探索。～授業編～
- 05 新入生のための、情報探索。～講習会・イベント編～
- 06 Topics「統合検索ツール Discovery をリリースしました!」「京大 ArticleLinker も一新!」
- 07 KURENAI コンテンツ紹介「中国文学報」
- 08 図書館・室からのお知らせ





# 新入生のための、情報探索。

全学共通科目：「大学図書館の活用と情報探索」授業風景。写真左上から時計まわりに、こころの未来研究センター：カール・ベッカー教授、工学研究科：引原隆士教授（図書館機構長）、薬学研究科：金子周司教授、附属図書館研究開発室：北村由美准教授、演習補助：坂本・宮田図書館職員、情報学研究科：黒澤植大教授。

## ～ 新入生のみなさん、京都大学へのご入学おめでとうございます ～

京都大学には 50 以上の図書館・室が各キャンパスにあり、多くの資料・情報・サービスを提供、学習・研究のサポートをしています。本号では、主に新入生を対象とした「情報探索」の授業（全学共通科目、学部独自）、また附属図書館、吉田南総合図書館を中心に、各学部図書館・室が行っている講習会・イベント等を内容別・対象別にわかりやすくご紹介します。

## 授業編

### 全学共通科目：

### 「大学図書館の活用と情報探索」

北村由美

京都大学附属図書館研究開発室准教授

大学でよく飛び交う言葉の一つに、「独自性」というのがある。「独自性」がある発言や、「独自性」の高い研究は面白く、高い評価を受けることが多い。では、「独自性」ってどうやったら身につくのだろうか。そもそも、「独自性」は何を基準に測られているのか。

学問における「独自性」は、単独で測ることはできない。これまで聞いたことがない、読んだことがないアイデアというのは、聞き手が持つ情報に照らし合わせて判断される。必然的に話し手は、ある分野において聞き手以上の情報を収集・整理して勝負に挑むことになる。つまり、大学における学習や研究において「独自性」を追求するためには、自分が興味を持っているテーマに関して、どういった学問分野で研究されているかを知った上で、これまで何が書かれており、何が書かれていないかを調べて整理する作業が不可欠なのだ。

「大学図書館の活用と情報探索」は、文系・理系の教授

陣と図書館職員がチームで提供している授業である。受講者は、それぞれの教授による講義を通して、専門分野は違っても、学術情報を収集し、整理し、その上で新しいテーマに取り組んでいくというプロセスを共有する。その上で、情報収集の専門職である図書館職員と一緒にデータベースなどのツールの使い方を身につけることができる。このようなスキルを、学術情報リテラシーといい、学術情報リテラシーを身につけることができれば、蔵書数約 700 万点、電子ジャーナル約 8 万 5000 タイトルという京都大学が提供する膨大な資料の海の中でやみくもに藁をつかみ溺れる心配がなくなる。

「大学図書館の活用と情報探索」ではまた、グループワークによって個別のテーマについて文献調査を行い、その結果をプレゼンやレポートにまとめるというアカデミック・スキルも身につけることができる。「独自性」への最初の一步を踏み出すために、この授業を履修しない手はない。

## 「コンピュータリテラシー演習」× 附属図書館

附属図書館では平成 26 年度から、全学共通科目「コンピュータリテラシー演習」の 1 回分をいただいて「学術情報の探索」と題してお話しています。きっかけは、ご担当の先生方から、学術情報流通のサイクルや図書館資料の正しい使い方を説明してほしいというご依頼があったことでした。

大学での学習では、情報の信頼性をみきわめること、そして信頼できる情報源すなわち図書館が提供する資料やデータベースを利用することが大切です。この授業では、なぜネット情報だけではだめなのかということから、正しい引用の方法までをお話して、学術情報流通のサイクルを意識してもらえるよう工夫しています。そして CiNii などのデータベースを使った論文の探し方を実習し、途中で簡単な確認テストをしながら、適切かつ効率的に文献を集め

る方法を学んでいただきます。また、学生さんに身近な吉田南総合図書館の職員にも来てもらい、図書館の紹介やイベント案内をしてもらっています。

附属図書館では 1 年を通じて講習会を行っていますが、このように授業に協力する形で学生さんにお話できることは、図書館にとっても貴重な機会です。これからも、京都大学の有用な資料や情報源を学習・研究に役立ててもらえるようサポートしていきたいと思っています。



## 「情報リテラシー講習会」× 医学図書館

医学図書館では「情報リテラシー」に関連する講習を、授業、データベース等の講習会、ガイダンス・オリエンテーションの 3 本柱で行っています。その 1 つである授業は平成 13 (2001) 年に 1 コマを担当したのが始まりでした。翌年は 1 年飛ぶのですが、平成 15 (2003) 年「授業再開のきっかけは、医学図書館のホームページの充実ぶりを見たのでという健康管理学講座の教員からのメール」(\*1) によって再開後、大学院社会健康医学系専攻の「文献検索法 Literature Research」として今に至ります。この授業の到達目標は「各種データベースを活用して社会健康医学に関する情報を検索するスキルを習得する。」(\*2) ことであり、その中で医学図書館は図書館サービスと情報検索を担当しています。Google などの検索エンジンや Wikipedia を文献検索で使うことの良し悪しや、情報リテラシーにも触れ、「早く、漏れなく、自分のテーマに合致した」文献に到達し、検索結果を評価できるよう、各データベースの説明と実習を行っています。

平成 27 (2015) 年度は、チュートリアルも含め 6 件の授業を担当しました。受講生のアンケート結果を元に内容の見直しを図っていますが、授業を全て英語で行う専攻もあり、図書館担当部分も英語で進めるのか、資料の和英併記でよいのか、留学生への対応はどうすればよいのか、毎回内容だけでなく説明方法にも悩むところです。

授業の対象は主に学生ですが、文献検索のスキルアップを望む研究室の秘書、看護師、医療従事者への講習会も行っています。前年度の講習会に参加された看護部の教育担当者からご依頼があり、平成 26 (2014) 年から卒後 3 年目の看護師へのプログラム内で、文献検索の講習を始めました。

またその頃、論文における剽窃や捏造などが世間を賑わしていたこともあり「医学図書館による授業サポート」を先生方へご案内し、図書館の活動をお知らせしました。

授業や講習会の内容は、確認や復習用として、また受講できなかった方もお使い頂けるよう、医学図書館 HP に「講習会・授業の記録」として掲載しています(\*3)。

医療従事者にとって医療情報は、更新の速さだけでなく正確性も必要なため、「一生を通じて学んでいく」ことが不可欠です。医学図書館の担当する授業や講習会が、文献検索方法だけでなく、これから医療従事者になる学生への手助けになればと願っています。

\*1 「京都大学医学図書館における情報リテラシー教育への取り組み」  
北川昌子 医学図書館 52(1) 2005 36-41

\*2 授業シラバスより

\*3 京都大学医学図書館 HP- 講習会・授業の記録 2015 年度

[http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/ejpage/history\\_seminar2015.html](http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/ejpage/history_seminar2015.html)





## 入門演習：

# 「情報検索入門」「図書館ガイダンス」× 経済学部図書室

経済学部では、前期に1回生を対象として入門演習が開講されており、うち「情報検索入門」と「図書館ガイダンス」の2回の授業を図書室職員が担当しています。

各授業の内容を簡単にご説明します。「情報検索入門」は、情報演習室にて、講義、パソコンを使った演習、演習の解説という流れで行います。新入生は入学までにインターネットなどの様々な情報に接してきていますが、講義ではまず情報の信頼性が重要になるということをお話しします。その後、KULINEなどの検索システムの使い方、経済関連データベースなど学術情報の種類や入手の仕方、著作権・使用許諾条件など、論文レポートを書く際にすぐに役立つ知識をお伝えし、演習を通じて実際に学術情報の検索を行います。

もうひとつの授業「図書館ガイダンス」は、図書室や経済資料センター内で行われます。論文レポートを書くための図書館活用法について説明を行った後、資料タイトルや著者名などの情報をもとに、その資料がどこにあるのかKULINEで検索し、書庫に入室、資料を借りる演習を行います。

図書室が担当する授業は、教員の依頼がきっかけで平成21年度より始まりました。教員からのフィードバックもあり、内容や日程について適宜見直しをしています。大学生活スタート時期にこの授業を受講することで図書室や情報を上手に使いこなすことができるようになり、その後の学習に役立ててもらえるのではないかと考えます。

## 情報基礎演習・情報基礎実践：

# 「工学系学術情報リテラシー（基礎）」× 工学部図書室（地球・建築・物理・電気・化学） 情報学研究科図書室

工学部では、1回生全員を対象とした授業「情報基礎演習」（情報学科は「情報基礎実践」）の中の一コマに、「工学系学術情報リテラシー（基礎）」（\*1）を設けています。

授業内容は、まず、資料の探すための、蔵書検索システム「KULINE（\*2）」での「図書・論文の検索方法」、そしてレポートを書くための「資料の見つけ方」「参考文献リストの読み方・書き方」「ルール」、執筆の際の「不正行為」などを取り上げます。

担当教員とTA、各系（地球・建築・物理・電気・化学・情報）の図書職員が連携し、図書職員による講義に加え、パソコンを使った実践的な演習をメインとした授業です。

大学入学後の学習・研究活動においては、日々多様化・膨大化する情報資源（図書、雑誌、電子情報など）に効率

よくアクセスでき、またその中から本当に必要な情報を得る力、情報リテラシーが必要です。参考文献の書き方以外にも、レポート執筆の際のルール・著作権等、講義では倫理的知識についてのサポートもしています。

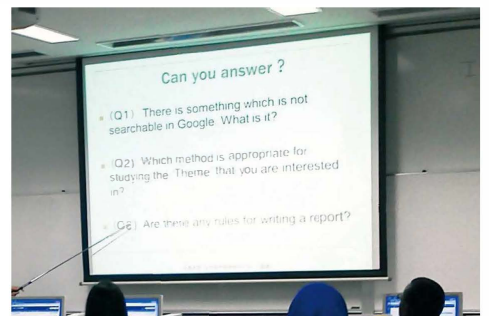
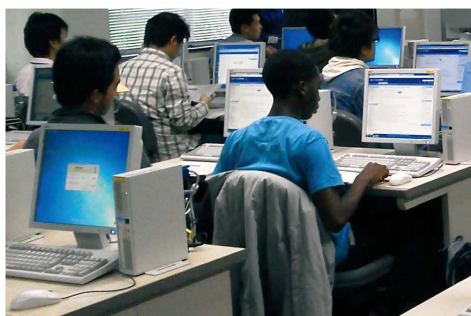
授業をとおして、各系の図書室や職員を知ってもらう良い機会にもなっており、適切な情報リテラシーの知識を身につけられ、図書室をうまく活用できるようになる一コマです。

\*1 京都大学工学部・大学院工学研究科図書室 > 講習会  
<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/lib/ja/training/2015/2015>

\*2 KULINE（くらいん）

京都大学図書館蔵書検索システム。資料が京大のどこの図書室にあるか調べることができます。

<http://kuline.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

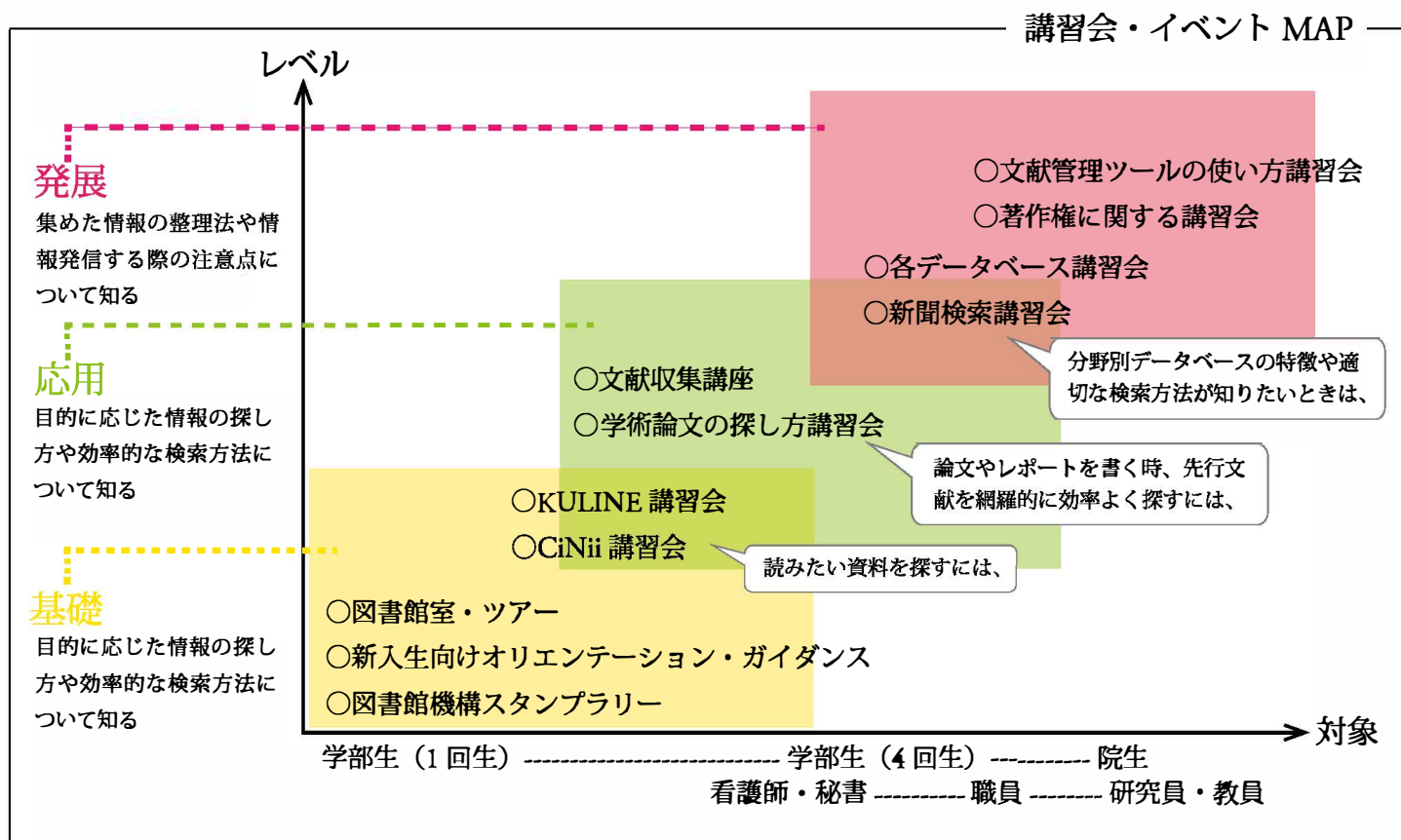


地球工学科国際コース

# 講習会・イベント編

これまで授業と連携した取り組みの紹介をしてきましたがこのページでは、図書館・室が中心となって開催している講習会やイベントなどの取り組みをご紹介します。

求めている情報や、その情報を探索するために必要なツールは人によってさまざま。京都大学の図書館・室では、多様なニーズにこたえるため、いろいろなタイプの講習会やイベントを開催し、学習研究をサポートしています。



忙しくて講習会に参加しにくいという方には、都合のつく時間に文献の探し方などの講習が受けられるオーダーメイド講習会に申し込むのはいかがでしょうか。あるいは、空いた時間にオンライン講習会を受講したり、図書館機構のサイトからヒントをもらうのもお勧めです。「図書館機構 HP 学習 / 研究サポートページ」(\*1) には、データベースの使い方や資料別の探し方の情報がぎっしりつまったレファレンスガイドが掲載されていますので、情報検索や文献収集で困った時には、まずはご覧ください。また、講習会と聞くと学生対象というイメージがありますが、秘書・看護師対象の職員向けの講習会(\*2) も開催しています。

さて肝心の、いつどこでどのような講習会が開催されているのか？についてですが、毎月はじめに図書館機構サイトに、学内で開催される講習会・イベント情報を一覧で見ることができる「今月の講習会・イベントのご案内」(\*3) が掲載されます。そちらでわかりやすくご案内していますので、チェックしてみて、気になる講習会があればぜひご参加ください。

\*1 図書館機構 HP 学習 / 研究サポートページ

[http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/support/index.php?content\\_id=1](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/support/index.php?content_id=1)



\*2 京都大学医学図書館 HP- 講習会・授業の記録 2015 年度

[http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/ejpage/history\\_seminar2015.html](http://www.lib.med.kyoto-u.ac.jp/ejpage/history_seminar2015.html)



\*3 図書館機構 HP- 今月の講習会・イベントのご案内

[http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/support/index.php?content\\_id=4](http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/support/index.php?content_id=4)



～ わからないことなどありましたら、お近くの図書館・室に遠慮なくお尋ねください ～

## 統合検索ツール Discovery をリリースしました！

2016年2月24日、統合検索ツール **Discovery** をリリースしました。

Discovery は図書・論文・新聞等の様々なデータベースを一括して素早く検索できるツールです。

1つの検索窓から、あらゆる形式の学術情報をまとめて探すことができます。

こんな時にオススメ

- どのデータベースを使えばいいのかわからない
- 普段つかっているデータベース以外にも検索したい

ここからアクセス



京都大学蔵書検索システム KULINE

<http://kuline.kulib.kyoto-u.ac.jp/>



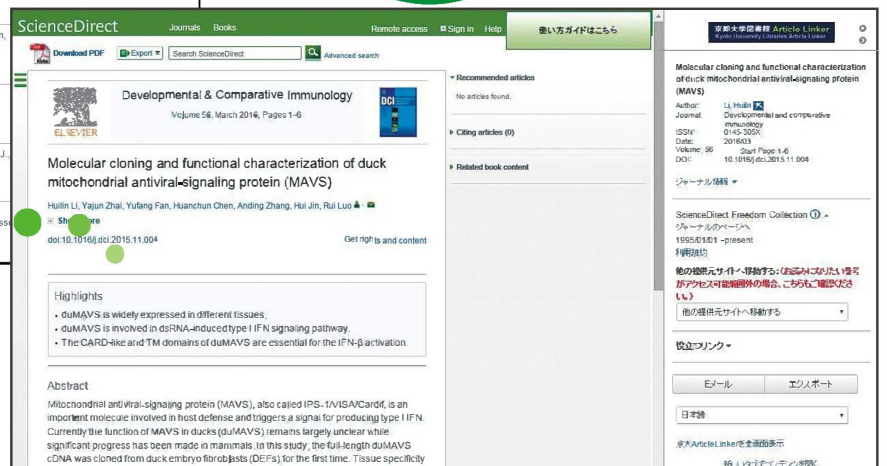
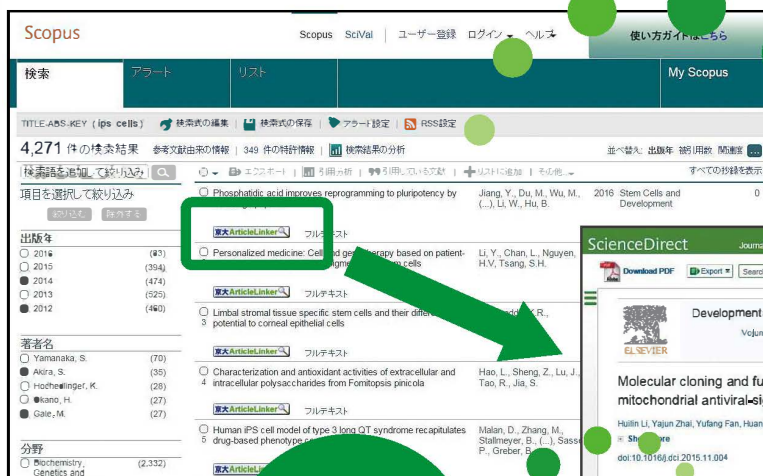
Discovery

<http://kyoto.summon.serialssolutions.com/>



## 京大 ArticleLinker も一新！

京大 **ArticleLinker** は、Web of Science や CiNii 等の文献データベースの検索結果から、論文本文へナビゲートする論文リンクツールです。使いやすくなった京大 ArticleLinker をぜひご利用ください。





緑川 英樹 (文学研究科准教授)

「中国文学報」 京都大学文学部中国語学中国文学研究室 編集

中国文学報

(<http://hdl.handle.net/2433/176485>)



『中国文学報』は、1954 年 10 月に創刊された中国文学に関する学術雑誌である。第 1 冊から第 21 冊までの表紙には、当時の京大中文の二枚看板であり、日本の中国文学研究を代表する碩学、吉川幸次郎・小川環樹の編集と銘打たれていた。吉川の退職後、第 22 冊（1968 年 4 月）の編者は小川ひとりのみ、第 23 冊（1972 年 10 月）に入矢義高も名を連ねるものの、それ以降は教授の個人名ではなく、「京都大学文学部中国語学中国文学研究室 編集」と表示されるようになる。本誌は、原則として年二回（4 月、10 月）のペースで発行されているが、60 年代末から 70 年代初にかけて、四年半におよぶ長い休刊期間があるのは、大学紛争の影響を被ったものにほかならない。

そもそも『中国文学報』はいかにして誕生したのか。今でこそ中文専攻のある大学がそれぞれ独自の雑誌をもつことは珍しくないが、当時においては極めてユニークな存在であった。ところが、第 1 冊に「創刊の辞」や「編集後記」のたぐいは一切なく、誕生のいきさつについて、現役世代のわたしたちは先学からの口伝によりおぼろげに聞き及んでいるにすぎない。幸い活字による具体的な記録として、中文の助手の任にあった島田（寛）久美子氏に「ゴマメの歯ざしり——研究誌刊行維持に関して思うこと——」（『図書』No.164、岩波書店、1963 年 4 月、川合康三先生のご教示による）というエッセイがある。

この文章によると、「戦後しばらく、財政的顧慮から、

研究誌がどこも長編論文に冷淡であったとき、わが先輩の諸先生が一念発起したというのが、刊行のそもそもの始まり」で、「今でさえ安すぎるのに今よりもっとひどい給料だった先生がたが、それこそ塩をなめつつ一万、二万と出しあって基金調達をした」という。字数制限に拘らず長篇も掲載可能であること、広告やスポンサーに頼らぬ独立採算制であること、さらには専門家だけでなく専門外の人にも読まれる雑誌であること、そうした意気込みのもとに『中国文学報』は産声をあげたのである。

初期の定期購読者には、中国文学関係は言うまでもなく、中野重治・石川淳・山本健吉といった専門外の作家、評論家たちも数多く含まれていたと仄聞する。吉川が広い人脈を生かして売りこみをしたようであるが、フランス文学者の桑原武夫が書評（「吉川幸次郎『項羽の垓下歌について』『漢の高祖の大風歌について』」、第 4 冊）を執筆するなど、社会的に開かれた論争の場を提供するという理念に裏打ちされたものであった。

爾来、本誌の歴史はすでに六十余年におよび、国内外の学界において声価が高い。目下、過去に掲載された論文・書評のなかから代表的な数十篇を選んで中国語に翻訳し、アンソロジーを刊行するという計画もある。著作権者の許諾を得た論考については KURENAI にて順次公開を進めており、中国文学に関心をもつ研究者・学生の方々に積極的に利用していただければ幸いである。

## 京都大学学術情報リポジトリ KURENAI とは？

京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI) では、オープンアクセスを実現するプラットフォームとして、京都大学で日々創造される研究・教育成果（学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文など）をインターネット上で公開しています。







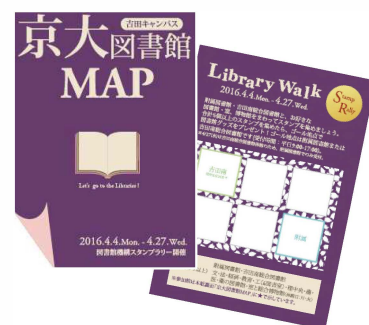
## 図書館・室からのお知らせ

### ■ 図書館機構スタンプラリー「Library Walk」実施中（2016年4月4日～27日）

附属図書館、吉田南総合図書館の他に、学内の図書館・室もしくは博物館を廻って「京大図書館 MAP」に5個以上のスタンプを集めると、ゴール地点でオリジナル図書館グッズを差し上げます。詳しくは次の案内をご覧ください。

図書館機構スタンプラリー

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1857>



### ■ 図書館機構講演会

「デジタル化資料の公開にかかわる権利処理を学ぶ—基礎知識から実践まで—」を開催

図書館機構は、平成27年12月3日に標記講演会を開催しました。学内外から85名の参加があり、デジタル化資料の有効活用のために必要な著作権処理の知識や課題、今後の方向性などについて学ぶ貴重な機会となりました。

図書館機構講演会

「デジタル化資料の公開にかかわる権利処理を学ぶ—基礎知識から実践まで—」

<http://www2.kulib.kyoto-u.ac.jp/kenshu/?p=3899>



### ■ 吉田南総合図書館の改修工事が完了しました

長期にわたる工事でご迷惑とご不便をおかけしていましたが、屋根・外壁の改修、エレベーターや照明の取替が3月をもって完了しました。より使いやすくなった吉田南総合図書館をどうぞご活用ください。

### 図書館機構報「静脩」読者アンケートにご協力ください

「静脩」の誌面をより充実させるため、毎号の誌面を対象に、読者アンケートを行っています。アンケートにご回答いただいた方には、もれなく「静脩」オリジナルのPC用壁紙・ブックカバー（文庫・新書用）をプレゼントします。皆様のご意見・ご要望をお待ちしています。

読者アンケート

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/bulletin/index.php?page=article&storyid=1774>



オリジナル PC 用壁紙・ブックカバーデザイン

### 京都大学図書館機構報「静脩」（ISSN 0582-4478）

Vol. 53No. 1（通巻 189 号） 2016 年 04 月 01 日発行

編集：「静脩」編集小委員会（責任者：附属図書館事務部長）

発行：京都大学図書館機構

京都府京都市左京区吉田本町 36-1

TEL 075-753-2613

URL <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

表紙題字：附属図書館所蔵 西園寺公望公揮毫

### 今月の表紙

新入生みなさんが、これからよく利用することになる図書館の一つ、吉田南総合図書館（逍遙館）です。特集にあるような講習会・イベント等で、みなさんの学習・研究のサポートを手厚く行っています。ぜひ足を運んでみてください。

